

被害者による社会復帰・自立支援モデル構築活動 パート2

今号では、MDT 通信 32 号でもお伝えしました被害者による社会復帰・自立支援モデル構築のための委託事業活動として、9月25-27日に行われましたグループリーダー育成研修についてお伝えします。この委託事業はこれまで Foundation For Women (FFW) という NGO が育成してきた人身取引被害者のピアサポートグループの活動を支援し、そこから得られた知見をもとに、被害者中心の社会復帰支援モデルを構築し MDT 強化につなげようというものです。

ピアサポートグループのメンバーは現在約 70 名ですが、今回のワークショップは、その中核となるメンバーを育成するためのリーダー育成研修の第二弾でした。テーマはカウンセリング技術で、その他にも BATWC のタイ人被害者支援課の課長さんを講師に招いて、人身取引被害者に対する政府の支援について知るというセッションもありました。

ワークショップではこのような新しい知識を得るための研修とともに、自分自身の体験を話す自己カウンセリングも行われました。自己カウンセリングは前回のワークショップでも行われましたが、被害者が思いの丈を話す機会は少ないために繰り返し必要なのです。被害にあって何年も過ぎた今も心の傷が治らず精神科に通っている人もあり、人身取引のもたらすダメージの深さを再認識させられました。また、近しい人に騙されるなどつらい経験を重ねてきているため、他人を信用できなくなっているのではと感じられる場面もありました。

このような苦しみを持った人たちが自分自身の体験を話すことにより解放され、ワークショップ開始時より見違えるように明るい顔になっていくのを見てカウンセリングのもつ力の大きさに心を打たれました。

自分のつらい歴史を乗り越えようとするその経

験こそが、同じような苦しみを克服しようとしている他の被害者に力となることでしょう。カウンセリング技術に関しては Assumption 大学の心理学の博士課程の学生チームから傾聴の初歩的な技術を学びました。



BATWC からの講師パチャリーさんには参加者からの質問が止まず、予定時間を大幅に延長しました。参加者は今まで BATWC の職員から支援について直接話を聞く機会がなかったそうなので、これが実現したのはこのピアサポートの強化がプロジェクトの活動に含まれた成果では、とうれしく思いました。参加者は人身取引基金や他機関からの被害者支援について熱心に質問していました。

参加者は自分自身が大きな問題を抱えているにも関わらず、同じ境遇にいる人たちを助けたいという人達です。彼女たちの強い思いに感銘を受けました。プロジェクトでは今後も様々な活動を通じてグループを強化し、人身取引被害による被害者支援を進めるための活動を続けていきたいと思えます。